

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 53
2020.9

TOPICS

1

岡山大学とベネッセが共同研究「瀬戸内サステナビリティ&ウェルビーイング研究プロジェクト」を開始



本学と株式会社ベネッセホールディングス(以下「ベネッセ」)は、SDGsを軸に、2020年度から2022年度の3カ年をかけて、地域の持続可能性と「well-being: ウェルビーイング」の学術的研究を共同で進めることを決定しました。直島メソッドならびに公益資本主義が、直島・犬島・豊島の3島を中心とした地域や住民の「well-being: ウェルビーイング」にもたらした変化とそのメカニズムについて調査し、学術的な成果としてまとめます。

共同研究にあたり、榎野博史学長は「新型コロナウイルスの流行を経て、新たな社会を作っていくにあたっては、人間の価値や豊かな生き方が重要になります。SDGsを推進してきた本学とベネッセの共同研究を通じて、サステナビリティとウェルビーイングとは何かを研究し、世界に発信していきたいと考えています」と話しています。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9643.html



TOPICS

2

リモートによる院内コンサート「岡フィル・レインボーコンサート」を開催

岡山大学病院は9月17日、Jホールで、岡フィルハーモニック管弦楽団による「岡フィル・レインボーコンサート」をリモート開催しました。

当院では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で院内コンサートを3月上旬から中止していましたが、病氣と闘っている患者さんに向けて何か明るくなる話題を提供できないか検討している中で、同楽団から《リモートコンサート》の提案をいただき、このたび初めて実施。演奏は無観客のホールで行い、コンサートの様子はインターネットを通じてリアルタイムで配信しました。外来患者さんには、個人のスマートフォンなどから視聴可能なURLを案内し、入院中の患者さんは各病室のテレビで、それぞれ演奏を楽しんでいただきました。

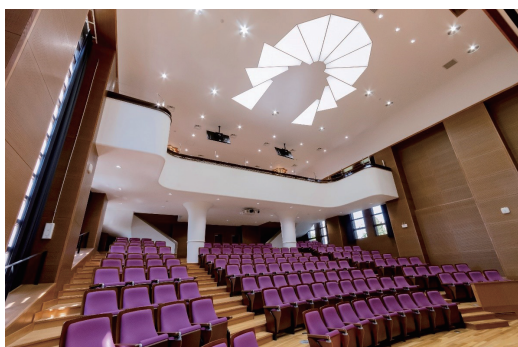
金澤右病院長は「一人でも多くの患者さんに元氣と癒しを与えられるよう、これからも新型コロナウイルス感染症と共存しながら、新たな形式のコンサートとして続けていきたい」と話しています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9654.html



Pick up!

鹿田会館(旧生化学棟)講堂の竣工式を実施



今年度創立150周年を迎えた岡山大学医学部の記念事業の一環として進めていた、鹿田会館(旧生化学棟)講堂の改修工事が完了し、9月14日に竣工式を行いました。改修工事により、179席の最新チェアを設置、椅子を追加することで約230人の収容が可能となりました。

また、最新の高精度レクチャーシステムを導入した一方で黒板と黒板枠などの一部は以前のものを残し、最新鋭の講堂にありながら、歴史と伝統との融合を図る講堂にリニューアルしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9641.html



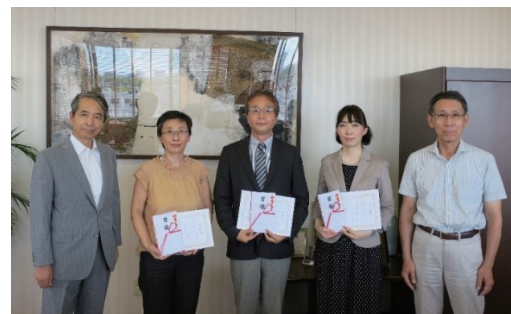
TOPICS

3

岡山大学ティーチング・アワード表彰式、 桃太郎FD・SDバーチャルフォーラム2020を開催

9月8日、岡山大学ティーチング・アワード表彰の表彰式を開催しました。本表彰は、前年度に開講した教養教育科目を対象に、学内から推薦された授業科目の中から、各選考区分において本学の教育改革を先導する先進的な授業や優れた教育を行った授業を選考し、その担当教員を表彰する制度です。令和元年度開講科目からは「アクティブ・ラーニングを活用した授業」において地域総合研究センター前田芳男教授の「岡山市の魅力を世界に伝える活動」、「SDGsに関連した授業」に全学教育・学生支援機構 RUCYNSKI JOHN EDWARD准教授の「コミュニケーション開発1」、「外国語を使った授業」にグローバル人材育成院(GDP) 鄭幸子准教授の「Cross-Cultural Experiences」、「全学に広めるべき優れた教育を行っている授業」に中川祐子非常勤講師の「英語(ライティング)-1」を選び、榎野学長が各教員に表彰状を授与しました。翌日は、桃太郎FD・SDバーチャルフォーラム2020をオンラインで開催。受賞者によるプレゼンテーションを中心に、受賞科目の工夫点やオンライン教育への活用法を考える分科フォーラムを実施しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9636.html



TOPICS

4

横井副学長が地球憲章国際審議会委員としてウェビナー 「ポストコロナの未来をつくる：地球憲章とSDGs」に登壇



横井篤文副学長(特命(海外戦略)担当)・ユネスコチェアホルダーは9月1日、岡山青年国際交流会が主催で、地球憲章国際本部と本学グローバル人材育成院が協力するウェビナー&フリートーク「ポストコロナの未来をつくる：地球憲章とSDGs」に地球憲章国際審議会委員として登壇しました。

横井副学長は基調講演において、「持続可能な開発」の歴史的背景を交えながら、地球憲章とSDGsとの関わり、そしてポストコロナの不透明な世界における地球憲章の果たす意義について説明。本学が全学で取り組むSDGsの活動についても話しました。本ウェビナーには、ミアン・ビレラ地球憲章国際本部代表理事・ユネスコチェアホルダーがビデオレターで参加。冒頭で地球憲章とSDGsの価値や原則を全学レベルで取り入れる本学の活動と、地球憲章国際本部との連携について感謝が述べられました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9626.html

PRESS
RELEASE

新生スーパーカミオカンデで挑む宇宙の進化の解明

宇宙初期から現在までの138億年の間に起こった超新星爆発で放出され宇宙に蓄積されたニュートリノ「超新星背景ニュートリノ」の世界で初めての発見と、それにより宇宙の進化の解明を目指す研究計画(科学研究費・基盤研究A・課題番号 20H00162・代表者 岡山大学 小汐由介)が本年度よりスタートしました。

また先月には東京大学宇宙線研究所が運営するニュートリノ検出器「スーパーカミオカンデ」にレアアースの一種であるガドリニウムが加えられ、新たな装置として観測をスタートさせました。これにより超新星背景ニュートリノの観測が高感度で行えるようになります。本研究は新たな素粒子・原子核物理学の実験を推進し、その結果をフィードバックすることで、スーパーカミオカンデでの超新星背景ニュートリノ観測精度を劇的に向上させる計画です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id767.html

